

市議会議員あいざき佐和子の活動ニュース v o l . 3 6 ITAMI大好き! 2013年8月

視察報告①福岡市 ～ソーシャルビジネスってなんだ?!～

■視察は意味あるのか?

「議員の視察って意味あるの?」「税金の無駄遣いでは?」・・・よく聞くお声です。これについて以前(「ITAMI大好き!」24号)に詳しく書かせてもらいましたが、私は「視察を活かすも活かさないも議員の取り組み次第」とし、視察中のみならず事前調査や事後検証を徹底的に行うことで、市に有意義なものにできると捉えています。当然、視察内容を市民に報告することも重要。そこで改めて先日の「総務政策常任委員会の視察」についてご報告します。



■ソーシャルビジネスの支援 ～福岡市～

では改めて、総務政策常任委員会の視察(8月19日～20日)をご報告。1日目は、福岡県福岡市。内容は「ソーシャルビジネスの支援」です。ソーシャルビジネス、耳慣れない言葉かもしれませんが、これは「ビジネスの手法で社会的課題を解決する活動(政府オンラインより)」とされています。コミュニティビジネスとも言われています。

個人的には“いろいろな社会課題(福祉・環境・地域活動など)を、単なる善意の活動ではなく一歩進んだビジネスの手法も取り入れたシステムティックなやり方で解決していく取組”と解釈しています。

メリットは、福祉や環境の分野で民間の柔軟性を活かしたサービスを生み出せたり、市民活動の分野で自主財源の確保を促し継続的な活動につなげていけたり、新たな資金循環や市場を創出できたり、学生や主婦や高齢者などの居場所や出番を作り出せたり。

これまでソーシャルビジネスは、ボランティア団体やNPO団体が取り組みを充実させるケースが多かったのですが、最近では企業が社会課題の解決に取り組むケースも増加しています。

■伊丹でどう支援する?!

福岡市は、H15年から支援を行っています。内容は、相談窓口の設置・支援者の派遣・起業セミナーの実施など。補助金などの経費的支援は実施していないとのこと。効果は、事業所が増加していることなど。課題は、事業所の収益性や雇用効果の向上だそう。

翻って伊丹市。伊丹でもソーシャルビジネスの支援に取り組むとしており、H24年には研究会を設置し諸事研究しています。しかし積極的な支援には至っていない現状。

様々な社会課題に対して、もちろん行政が実施すべき事柄はしっかり実施するわけですが、公平性の観点で慎重にならざるを得なかったり、財政の面で優先順位が低くなることもあります。

ソーシャルビジネスだと、民間感覚で柔軟性をもってフレキシブルに対応していくことが可能。ゆえに、伊丹でもソーシャルビジネスは推進していきたいと考えます。

伊丹で必要なのは、まず伊丹で求められるソーシャルビジネスとは何かを、再度熟議することだと考えます。福岡市では、反社会的なもの以外はOKとのことですが、伊丹ではもう少し絞ったものが求められるかもしれません。

それからソフト面での支援が必要でしょう。場所などのハード面もさることながら、運営などのソフト面で試行錯誤している団体が多いように感じます。そこをサポートしていければ。

それには様々なアイデアも求められます。他自治体の研究も重ねながら、知恵を絞っていきます。



(左) 福岡市役所玄関
(中) 視察中の様子
(右) 視察部屋の前で